

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) クラフター編



調理師クエスト

調理師ギルド 入門編

調理師ギルド受付

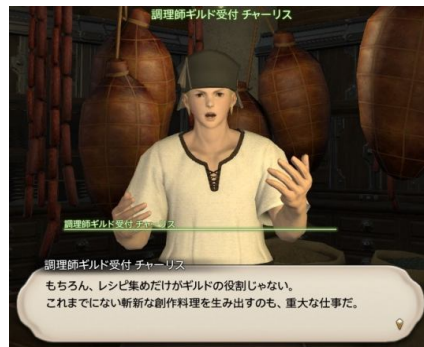
チャーリス：お客様、こちらは「調理師ギルド」でございます。レストラン「ピスマルク」でのお食事でしたら、外のテーブルへ……おや、違いますか？ では、様々な食材を調理し、人々の心とお腹を満たす「調理師」を志す方ですね？ならば、調理師を束ねる我々「調理師ギルド」への入門をお勧めします。

いいえ

ふむ、いやこれは失礼。自分の早とちりであったようですね。
ではお客様、ご注文ならテーブルにて承ります。お気が変わられたら、自分へお声がけください。

調理師ギルド受付 はい

チャーリス：……なるほど、調理師志望か？ だったら、営業用の堅苦しい台詞はヤメだ。早速、ウチのギルドについて説明してやるぜ。もともと、ここリムサ・ロミンサは、海の幸と山の幸の両方が手に入る食材豊かな街だ。加えて、交易船を通じて、異国から様々な食材、香辛料が持ち込まれる。もちろん、その調理法を記したレシピもいっしょにな。こうして集まった膨大な量のレシピを体系化してまとめあげた偉大な人物がいた。それが**ギルドの創設者、シャーククリーパー提督**さ。食通であり、自らも軍船の厨房に入り浸るほど調理を愛した彼は、この大事業に挑む過程でギルドを設立し、近代的調理法を確立させたんだ。もちろん、レシピ集めだけがギルドの役割じゃない。これまでにない斬新な創作料理を生み出すのも、重大な仕事だ。お前のような冒険者をギルドに入れるのも、同じ事情さ。要は、ギルドって鍋に冒険者という食材をぶちこんで新しい味わいを生み出そうとしてるんだ。そういう向上心に燃える人なのさ、うちのギルドマスター「リングサス」は。彼に認められれば、調理師ギルドに入門できるぞ。胸に手を当てて、調理への情熱を確かめてみる。ますます燃え上がってきたら、俺に声かけな。マスター・リングサスを紹介してやるよ。



調理師リングサス総料理長

調理師ギルド受付

チャーリス：調理への情熱は、ますます燃えあがったか？だから話かけたんだよな、俺に？

いいえ

なんだいなんだい。急に怖気づいちゃったのかい？

いずれにせよ、その状態じゃマスター・リングサスにや、会わせられないぜ。あの方の料理への情熱に、火傷しちゃうからな。

はい

そうかそうか、そいつはいい！その意気で、ギルドマスターにぶつかれば、必ず、迎え入れてくれるだろうさ。

マスター・リングサスはな、調理の腕も、調理にかかる情熱も、リムサ・ロミンサ随一だからな。

マスター・リングサスは、この厨房の上から料理人を見守ってる。今すぐ、お前の情熱をぶつけに行きな！

リングサス：お前さんか？調理師ギルドに入りたいと言っているのは、どれどれ、そのツラをよく見せてみる。

才能の欠片も見当たらない……なんてな。顔見ただけじゃわからんさ、わははっ！

それに、才能があろうがなかろうが関係ない。大事なのは料理に対する姿勢だ。そいつが燃えたぎってりゃ、問題ねえ。

それで、どうだいお前さん？お前さんは本当に熱い気持ちで、調理師ギルドに入門したいと思ってんのかい？

いいえ

リングサス：……おっと、どうしたんだ。やっぱり、料理は食べる専門ってか？だったら、外のテーブルで注文するんだな。

はい

リングサス：んんっ、いい返事じゃねえか。お前さんの料理への情熱が伝わってくるぜ。

調理を究めるってのは、簡単なことじゃねえ。俺にしたって、コース料理に例えりゃ、まだ前菜ぐらいだ。

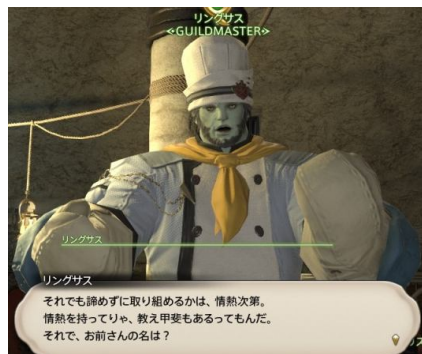
最後のデザートなんて、一生かかっても届くかどうか。

それでも諦めずに取り組めるかは、情熱次第。情熱を持ってりゃ、教え甲斐もあるってもんだ。それで、お前さんの名は？

……よし、◇◇◇よ、まずは、こいつを受け取れ。

初心者用の調理道具、「ウェザードスキレット」だ。こいつを装備した瞬間から、お前さんは「調理師」となる。

装備したら、また俺に声をかけるんだぞ。お前さんがちゃんと装備してるか、確かめるからよ。

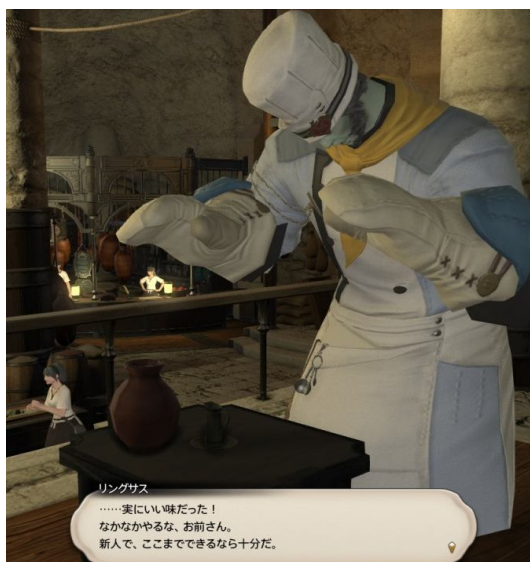


味覚の要

リングサス： ははっ、いいぞ！ 似合ってるじゃねえか！ そいつを使いこなすのが、お前さんの最初の仕事だ。
調理師の道は、片手鍋に始まり、片手鍋に終わるからな。お前さんにゃ、そいつを骨の髄まで学んでもらうぜ。
コトコトとスープを煮込むように、じっくりとな。
じゃあ、さっそく、お前さんの腕前を見せてもらおうか。お前さんがどのくらい使えるか、それがわからなきゃ、何を教えりゃいいのかも、わからないだろ？
ってことで、「**メーブルシロップ**」を1杯ぶん作ってこいや。「メーブル樹液」をスキレットで調理すればいいだけさ、簡単だろ？
必要なものは……今言った「メーブル樹液」に、「ファイアシャード」だ。
「メーブル樹液」は、調理師ギルドのヨッシーが扱ってる。あいつに話しかけりゃあ、売ってくれるぜ。
ようし、じゃあ行ってこい！ 「速さは美味さ」もまた、料理の神髄だ！ グズグズしてたら、千切りにするぞ！！

リングサス： 調理ってのは、時間との勝負でもあるんだ。さっさと「メーブルシロップ」を持ってこい！

リングサス： さて、「メーブルシロップ」……さっそく味見させてもらうとするか。
……実にいい味だった！ なかなかやるな、お前さん。新人で、ここまでできるなら十分だ。
「メーブルシロップ」は独特の風味がある甘味料でな。「克蘭ベツ」や「ラノシアトースト」を、ほんのり甘く仕上げたいなら、こいつの出番さ。
もちろん、そのまま使わずに、さらに煮詰めて「メーブルシュガー」にしてもいい。本当に用途の多い優れものさ。
と、こんな簡単に作れる「メーブルシロップ」だけでも、知っておくべきこと、覚えるべきことは山ほどあるんだ。
鍋を振るだけが料理じゃねえ。食材について詳しく知るのも、料理のレパートリーを増やすためには必要なんだぜ。
料理の味ってのは、工夫次第で無限に広がるもんさ。だからって、焦るなよ。焦らず努力を重ねていくんだぜ。
お前さんのことは、ちゃんと見てるからよ……、重ねた努力が頃合いになったら、また俺んところ来な。
新しい課題を、用意してやっからよ。



戒めるレシピ

リングサス：よく来たな、いいタイミングだぞ。なあお前さん、簡単な料理を作ってみねえか？
……実は、ビスマルクの若い調理師がヘマしてよ…… ちょいとへこんじまってるんで、なんとか元気づけてやりてえのさ。
まだ下っ端だし、失敗するのは仕方ないこった。しかし、いつまでも引きずってもらうのは困るんでな。
あいつの好物でも食えば、気も紛れるんだろうが……。俺が作ったんじゃ、押し付けめいててなあ。
そこで、お前さんの腕を見込んで、頼んでるってわけさ。
魚商「ハイアライン」で買える「プリンセストラウト」から、焼き魚「**グリルドトラウト**」を1個作って
厨房にいる「**イングハム**」って調理師に届けてやってくれ。
後輩のお前さんが作るから、意味があるんだ。「後輩でもこれだけできる」ってのを見せてやりや、
あいつのやる気、負けん気も戻ってくるだろうよ。

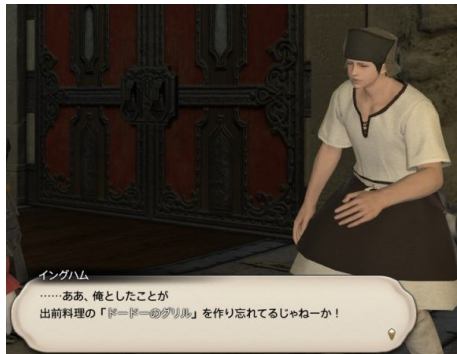
イングハム：ええっ、オレに差し入れがあるって？ 「グリルドトラウト」は確かにオレの好物だけど……。どうして差し入れなんか？
マスター・リングサスに頼まれたって？ 飯でも食って、元気出せってか……。
じゃあ、お前の料理とやらを見せてもらおうじゃねーか。
この「グリルドトラウト」、本当にお前が作ったのか？ ただの魚の塩焼きだってのに、香ばしい匂いだけで、腹が減ってきやがる……。
焼き上げた皮の照りと、焦げ目の具合がますます食欲をそそる！
これだけで、マスター・リングサスなら絶賛間違いなしだな。料理は五感で味わうもんだっていう、
マスターの教えを忠実に守ってるからな。
なあ……お前、確か新人だよな？ 最近ギルドに入った。なのに、もうこんなに人を魅了する料理が作れるのかよ。
オレなんて、魚を満足に焼けるようになるまで、半年以上もかかったってのにさ。
クソッ、これが才能の差ってやつなのか？ なんか腹立ってきたぞ……！ 決めた、オレはお前みたいな奴には負けねえ！
……いや、ちょっと待て。「グリルドトラウト」の礼だけはしとく。この「アマチュアクリナリーナイフ」を持っていけよ。
こいつは「副道具」っていう、スキレットみたいな「主道具」と合わせて使う道具だ。作業がやりやすくなるから、試してみな。
勘違いするなよな、あくまでも借りを返しただけだ。さっきも言ったけど、オレは絶対にお前なんかには負けねえ。
お前がそのクリナリーナイフで、どれだけ修行してもだ！



助けるレシピ

リングサス： よう！ この前は助かったぜ。レストラン「ビスマルク」のために、すまなかったな。すまないついでに、また力を貸しちゃくれねえか？ この間のイングハムが、どうも焦ってるようだな。レストラン「ビスマルク」の出前料理を任せてみたんだが1品、作り忘れちまってるんだ。
このままじゃ、お客様にご迷惑がかかっちゃう。お前さん「**ドードーのグリル**」を2皿作って出かける前の「イングハム」に届けてくれんか？ ガーリックで下味をつけたドードーの笹身を、じっくり焼き上げる料理だ。お前さんの腕なら問題なく作れるはずだ、頼んだぞ。

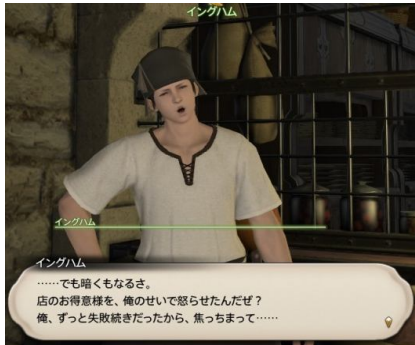
イングハム： え、「ドードーのグリル」を俺にくれるって？ マスター・リングサスに頼まれたから？ よく話が見えないんだが……？
だいたい、俺はこれから出前に出るとこなんだ。お前に付き合ってる暇は……って、確か注文の品に！
……ああ、俺としたことが出前料理の「ドードーのグリル」を作り忘れてるじゃねーか！
だめだっ、もう時間がない！ お前が作った「ドードーのグリル」がお客様に出せるか、見せてもらうぜ。
おお、なんだこの「ドードーのグリル」は！ シンプルな調理法だから、腕前がそのまま出る料理だが、これは実に見事な焼き加減……。肉質が柔らかく、脂身が少ない笹身を強火で焼き上げることで、肉汁を閉じ込め、柔らかさを残しつつジューシーに仕上げたのか！
なにより、黄金色の焼き色だけで十分に食欲を誘う。さらに、ガーリックの香りが肉の臭みを消すだけでなく食欲をさらに高めている！
……正直、俺だったら、ここまでできなかった。お客様にとっちゃ、お前の料理が出前された方が結果的に幸せだったな。
ちくしょう、俺のバカ野郎！ 今度こそ名誉挽回するつもりだったのにっ！ また、こいつに助けられるなんて！
前も言ったが、お前に借りを作りにたくない。耳寄りな情報をやるから、今回の件はこれでチャラにしてくれ。
ギルドリーヴの製作稼業ってのがあってのがあるんだが、こいつが調理師の修行にもってこいなんだ。
冒険者ギルドのチャ・モクリから、受けられるぜ。これで、せいぜい腕を磨くんだな。



起死回生のレシピ

リングサス：おう、元気そうだな。精進も重ねてるようで、なによりだ。ななに、隠したって、調理でつけた手指の傷でわかるのさ。もっとも俺から見たら、まだまだだがな！ それでも、お前さんの成長ぶりが、他の調理師へのいい刺激になってるのは事実だ。イングハムなんて、お前に対抗心燃やして、頑張りまくってるぜ。だが、ちょっと張り切り過ぎて、もめ事が起きちゃった。なのにあいつ、どうも俺には打ち明けづらいのが自分で抱え込んでしまってるんだ。お前さん、あいつから話を聞いてきてくれんか？

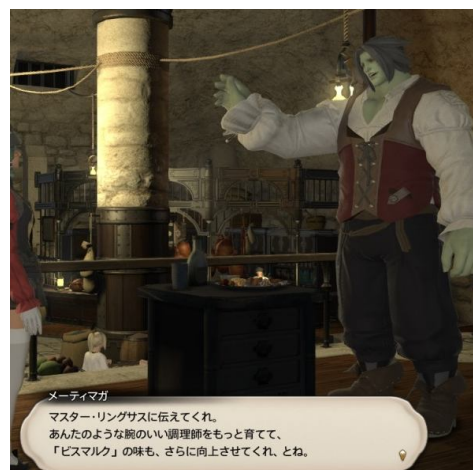
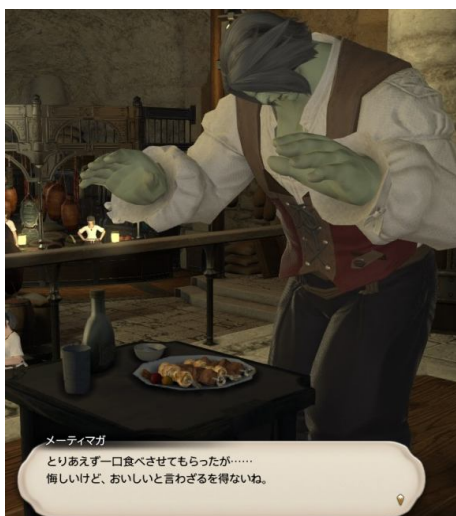
イングハム：お前……何だよ、用でもあるのかよ？ それとも、俺を笑いに來たのか？ ……いや、またマスター・リングサスの差し金か！？ ……悪イ、お前に当たるのは筋違いだよな。いつもドジ踏んでるのは俺だし、俺が全部悪いんだし。……でも暗くもなるさ。店のお得意様を、俺のせいで怒らせたんだぜ？ 俺、ずっと失敗続きだったから、焦っちゃって……お得意様の前で、いいところ見せようと思ってさ好物の「ミコッテ風山の幸串焼」を試食にお出ししたら逆に機嫌を損ねちゃって……。なんか店に抗議するって言うてるし……。俺の勝手で、店の名に泥めっちゃうなんて……。今頃、お客様の機嫌が直ってたりしないかな……。頼むから、ちょっと様子を見てきてくれないか？ テラス席にいらっしゃる「**メーティマガ**」様だ。



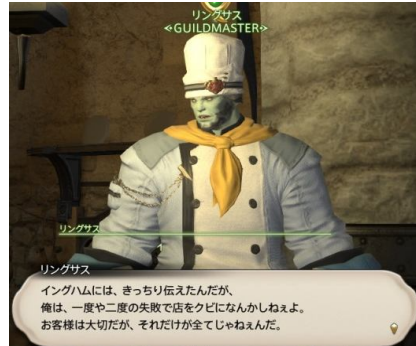
メーティマガ：ん、なんだいあんた？ 見たところ調理師のようだが……。もしかして、不味い「ミコッテ風山の幸串焼」を私に押し付けてきた調理師の代わりに、ワビでも入れに來たのか？ でもダメだね、不味いものは不味いと店に抗議するよ。それは私の信条ってやつだからね。しかし、「ビスマルク」も大丈夫なのかね？ あの程度の腕の調理師を雇ってたら名店「ビスマルク」の看板に傷がつくだろうに。それとも、安さがウリの屋台にでも方向転換したのか？ ……おっと、評価に不満があるのかい？ だったら調理師は言葉じゃない、料理で語るべきだろう？ 「**ミコッテ風山の幸串焼**」を1個、作りなおしてもらおう。あんたの料理で、この私を黙らせてみせな。それができたら、店への抗議を取りやめよう。

メーティマガ：「ミコッテ風山の幸串焼」はまだかい？ それとも、白旗を上げるのかい？

メーティマガ：へえ、できたのかい。不味かったら、マスター・リングサスにすぐ抗議できるよう、厨房の方でじっくりと味見させてもらおうじゃないか。とりあえず一口食べさせてもらったが……。悔しいけど、おいしいと言わざるを得ないね。まず焼き加減が素晴らしい！ 薄い焼き色ながら、鉄串を使ったお陰で、ドードーの肉が内側からも、しっかりと焼けている。それでいて、焼き過ぎて焦げ臭くなることなく、食欲をそそる香ばしさが、しっかりと存在した。そして口に入れたとき、まさきさに感じたのは、肉の深い味わい！ 香りで膨らみきった私の期待を完全に上回っていた。さらにルビートマトの酸味とパブリカの甘味が、肉の旨みを、見事に引き立てていた……。これこそまさに味のアンサンブル。私の完敗だよ、調理師さん。約束どおり、店への抗議は取りやめよう。マスター・リングサスが不在でも、まったく問題なかったな。マスター・リングサスに伝えてくれ。あんたのような腕のいい調理師をもっと育てて、「ビスマルク」の味も、さらに向上させてくれ、とね。



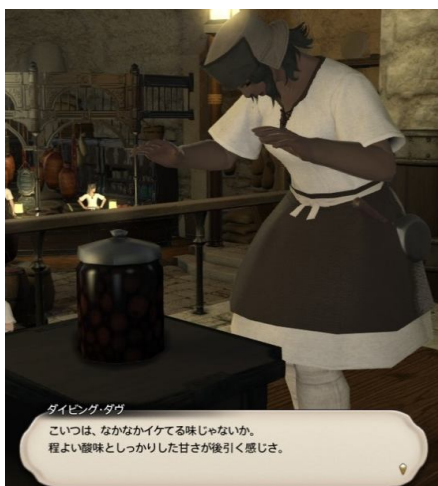
リングサス： ああ、留守中の話は聞いてるぞ。「ピスマルク」の上得意、メーティマガ様の機嫌を直してくれたそうだな。苦労かけた。実は、さっきまでイングハムと話し合ってたんだ。あいつも反省してるし、お前にも感謝してたぞ。自分で伝えろって言ったんだが、対抗心を持ってるからか、気まずいらしくてな。まあ、大目に見てやってくれ。イングハムには、きっちり伝えたんだが、俺は、一度や二度の失敗で店をクビになんかしねえよ。お客様は大切だが、それだけが全てじゃねえんだ。どんな奴だって一人前の調理師にする。たとえ、俺や店の名声が揺らごうとな。人を預かって物を教えるってことはそのくらいの覚悟がいるのさ。俺が守りたいのは、調理への情熱だけだからな。もしも俺が誰かをクビにするってんなら、理由はひとつ。そいつが「調理師」でなくなったときだけだ。ま、お前に関しちゃ心配はねえよ。もう新米扱いはできねえ腕前だぜ。俺が保証する、これからも頑張れよな！



癒しのレシピ

リングサス：おう、今日も元気に料理してるか？ 疲れってのはな、調理師にゃ禁物だぞ。料理にまで疲れが出ちゃうからな。とはいえ、いくら身体を鍛えてようが一日中立つて調理してりゃ、疲れってのはどうしても溜まる。なあ、ここはひとつその疲れを払拭する料理を作っちゃみないか。たとえば……「ドライブルー」なんかどうだ？ 「**ドライブルー**」は「ピクシーブラム」っていう、クルザス原産の果物を使って作る乾物だ。生だとほろ苦い果実が、乾かすことで、疲れたときにゃもってこいの甘〜い食べ物に変わる。日持ちするから、船乗りからも愛される一品だ。ただピクシーブラムは、ギルドショップのヨッシーは扱ってない。自力で採集するか、「西国際街商通り」のマーケットボードを見て、売りに出てないか探してみてくれ。できあがったら、厨房の窯で作業中の調理師「**ダイビング・ダヴ**」に1個届けてくれんか。特に、あいつが最近疲れてるみたいでな……。

ダイビング・ダヴ：へ、あたいに「ドライブルー」を？ マスター・リングサスからの差し入れだって？ これを食べてみればいいのかい？ ふむ、ちょうど休憩の時間になったから、上に行って一口いただくさね。こいつは、なかなかイケてる味じゃないか。程よい酸味としっかりした甘さが後引く感じさ。……たしか、あんたは最近、マスター・リングサスが目をかけてる調理師だよな？ ドライブルーってのは、噛み千切ったとき、歯にしっとりした果肉がまわりつく感じが決め手なんだよ。その点、あんたのは合格だ。昔からピクシーブラムには、様々な薬効があるとされてるんだ。あたかも毎日、薬代わりに食べてるが、生だと渋くてね。だけど、あんたが作ったドライブルーみたいに、乾燥させれば、甘味がぎゅっと凝縮される……。これなら、食べるのが楽しみになっちゃうな。にしても……なんでマスター・リングサスは、あんたに「ドライブルー」を作らせたのかね？ ……そういや、今朝マスター・リングサスに、最近あたいが疲れてるようだって言われたっけ。うーん、そんなはずないんだけどねえ。あたいは、健康のために命を懸けてるって自負してただけだな。そんなあたいの姿が、マスター・リングサスには無理してるように見えたのかねえ。忙しいお人なのに、厨房の調理師をよく見てるもんだ。あんたも、マスター・リングサスに心配かけないように、健康には気を付けなよ？ 調理師は、鍋を振るえるうちが旬なんだからさ。



滋養のレシピ

リングサス： やあ、お前さんか。ちょっとダイビング・ダヴの口癖を考えていな。「健康のために命を懸ける」っていうあれだ。食が身体を作る以上、健康的な料理を追求するのは、調理師の使命のひとつだからな。特に復興、復興で、どこも人手不足な今、スタミナがつく健康料理があれば、喜ばれるだろう。そこで考えたのが、「**大山羊ステーキ**」だ。ハイランダー族の伝統料理のひとつで、食べれば力が湧くことうけあいさ。だが、問題なのはアルドゴートの肉が、筋っぽいうえ、味にクセがあるってところだ。この点をどう克服するかが課題でなあ。なあお前さん、ちょっと1皿試作してくれよ。そいつを「ダイビング・ダヴ」に試食させて、意見を聞いてみてくれ、頼むぜ。健康的な料理についてなら、店の中じゃあいつが一番だからな。厳しくも的確な批評をくれるだろうよ。

ダイビング・ダヴ： あんたが作った「大山羊ステーキ」の感想がほしいって？ マスター・リングサスの頼みなら、仕方ないね。それじゃあ、さっそく上で試食してみるかね。あんたの「大山羊ステーキ」をさ。ふむ、これは……！ 筋っぽいアルドゴートの肩ロースを、よく叩いて、柔らかくにレアで焼き上げている！ さらに肉本来のクセのある雑味を感じない！ むしろ香ばしく風味が豊かになっているのは、ガーリックで下味を付けたからだね。それに肉料理にありがちな脂っぽさもなく、さっぱり食べられるスタミナ料理を実現している。脂身の少ない肉質を活かしているね！なるほど……あたいは発想がまるで逆だ。健康料理の常識を、ひっくり返された気分さね。以前にも言ったように、あたいは、料理に関しちゃ、健康のために命を懸けてる。身体に悪い食いは食べないことにしてるさね。そんなあたいに、ガツガツと喰わせてのけたんだ。あんたの料理は本物だよ。……こんな料理、故郷のウルダハじゃなかったよ。ただ焼き上げただけの雑な料理ばかりでね。あそこには美食家を気取る奴が多いが、その実、味がわかるヤツはほとんどいないのさ。そういう連中に料理を作るのがイヤになって、あたいはウルダハを捨てたんだ。この行動は、やっぱり正解だったね。あんたのような調理師にも出会えたんだから。あんたに負けないように、あたかも精進するよ。



食通ロロリトの挑戦状

リングサス： 痛ッ……くそったれ、動きやがれ！ 実は腕が荷車と壁に挟まれてな、しばらく動かんらしい。
この腕じゃあ、まともに料理ができねえ…… こんな日に、まいったぜ。
今日はヤバい客が「ビスマルク」に来るんだ。世の調理師すべての敵みたいな野郎がよ……！
そいつは、ウルダハの大富豪で権力者なんだが、毒舌の美食家としても有名だね。そいつが今、商談でこの都市に来てるんだ。
ヤツは、どんな料理でも肥えた舌でアラを見つけては、口汚くこき下ろしてきやがる。そうやって潰された店は、数知れねえ。
料理をしくじって、ヤツに悪評をばらまかれでもしたら、エオルゼア随一のビスマルクだって、おしまいさ。
だから、毎度、俺が相手してたんだがな……
勝負から逃げたとはいふられるのも我慢ならねえ。いや、待てよ……そうか、お前さんがいたか！
なあ、◇◇◇。俺の代わりに……料理を出しちゃくれねえか！？
すべての責任は、この俺が取る！ だが、お前さんならできると、俺ア信じてるぞ。
まずは、ウルダハ出身の「ダイビング・ダヴ」からヤツの情報を聞き出してみろ。その名は……ロロリトだ！

ダイビング・ダヴ： ロロリトの話は聞いてるよ。マスターもついてない、こんな日に怪我するたあね。
ロロリトは、宝飾店「**エシュテム**」、織物の「**サンシルク**」を傘下に置く「**東アルデナード商会**」の会長で「**百億ギルの男**」という異名を持つ爺さんさ。
財力にものを言わせて、ウルダハを事実上支配している「**砂蠟衆**」の一員だ。だが、いい噂は聞かないね。
そんなんでも、舌だけは本当に一流さ。でも、その舌を調理師を潰すためにしか使わないらしい。
もっとも、本当に美味しいものを食ったときは、何も言えなくなっちゃうとか聞いたことあるよ。
ツイてることに、ちょうど今、ロロリトの執事であるノノベサが、ビスマルクに来店してるんよ。
テラス席にいる「**ノノベサ**」に、ロロリトの好物を聞いてみるといいさ。ヤツの好物を出せば、気に入られる可能性も高まるだろう？

ノノベサ： あなたがリングサス様の代わりに料理を？ それでロロリト様の好みを知りたい、というわけですか。
ロロリト様に尽くそうという心意気は買いますぞ。
老境とはいえ、あの方もまだまだお盛んですからな。肉を好んでお食べになられます。とくに「ラプトルのモモ肉」を好まれますな。
硬すぎず柔らかすぎず、最高の焼き加減に仕上がった「**スモークドラフトルHQ**」の1皿でも出せば
ロロリト様にご満足いただけるやもしれません。
可能な限り、材料も高品質のものを使われることをお勧めします。ロロリト様は、素材の産地をも感じ取る舌をお持ちゆえ。
さて……ロロリト様の商談は、じきに終わります。それまでに料理を用意するが、よろしかろう。
お戻りと同時にお食事を取れば、心象もよくなりましょう。
完成した料理は、私めへお届けください。ロロリト様のお部屋まで、運ばせていただきますゆえ。

ノノベサ： 最高品質の「スモークドラフトルHQ」ですぞ。その料理こそ、今のロロリト様がお求めになる料理です。
違いありません、この爺にはわかるのでございます。

ノノベサ： 完成されましたか。では、別室にて最終確認をさせていただきます。下手な料理をお出しすれば、私の首も危うくなりますゆえ。
これは……素晴らしい料理ですなあ！ 私が口にできぬのが、悔しいくらいでございます。
まず、食欲をそそるスパイシーなこの香り！ 「ラプトルのモモ肉」の難点である臭みも、サンレモンによって、見事に消し去っておられる。
そして、オリーブオイルを使うことで、素晴らしい照りを与えた見た目も美しい……。
今まで各地で、数々の調理師の方に、ロロリト様のお食事を用意していただきましたが……、
これほど素晴らしい燐製は、初めてお目にかかりました。
あなた様の腕は、リングサス様にも劣らぬようすな。あの方があなたを推した理由が理解できました。
ロロリト様の舌は、私めのような凡俗では気付くこともないかすかな妥協をも感じ取られます。
しかし、この「スモークドラフトルHQ」ならば、ロロリト様の舌をとろけさせること叶うやもしれませぬぞ。
……さて、そろそろ、ロロリト様のお部屋に、この料理を運ばねばなりません。
この料理をロロリト様が召し上がったら、いずれ調理師ギルドのほうに沙汰がありましょう。
期待して、お待ちいただいて結構だと思いますよ。それでは、リングサス様にも、よろしくお伝えください。



リングサス： 聞いたぞ、◇◇◇！ ノノベサが大絶賛だったとか、やったじゃねえか！
長年ロロリトに仕えているノノベサが、そんだけ絶賛するなら、ロロリトの奴に食わせても心配ないな。
どうやらお前さん、俺の想像以上だったようだな。まさしく俺の……左腕だ。
左腕つてのはスキレットを握る大事な腕。調理師が一番、信じるべきもんさ。
さあ、よりいっそう励めよ、◇◇◇。お前には、それだけの才能があるんだからな。そのためなら、俺は協力を借しんぞ。

あばき出すレシピ

リングサス：偉いじゃねえか、俺のところにマメに顔を出すなんて。そうだよ、腕があるからって傲慢になっちゃあいけねえ。学ぶことなんざ、後から後から湧いてくる。俺も船の厨房に立ってたころは、毎日が勉強よ。たとえば……そうだな。ウチの店の会計、「ラティシャ」に話を聞いてみる。あいつは、もとメルヴァン税関会社のお役人サマでな。俺たち料理一筋の輩とは、違う視点を持ってる。会計の視点、食う側の視点ってのも、勉強になるだろうよ。

ラティシャ：何か、ご用でしょうか？ おや、先日、ロロリト会長に料理を出された方ですね？店の危機を救っていただき、ありがとうございました。マスター・リングサスに指示され、話を聞きに来られたと？すでに十分な腕前ながら、私のような料理の素人にも素直に教えを乞う姿勢……とても好感が持てます。私、仕事に追われ、本日はまだ食事をしておりません。「まかない」を作っていたいただければ、その料理をいただきつつ、あなたとお話できますよ。「まかない」といえば……これしかありません。「ラタトゥイユHQ」を1皿希望します！楽しみにしていますね。

ラティシャ：あなたが作ってくださる「ラタトゥイユHQ」のまかない……楽しみにしていますね。

ラティシャ：まあ、とても良いにおいがします。まずは一口いただきますね！大変おいしかったです！これほど愛情にあふれ、創意工夫にとんだラタトゥイユをいただいたのは久しぶりです。私は、天下の「ビスマルク」の会計係として、所属する調理師の価値を、常に算定しています。……その指標として最適なのが、この「まかない」なのです。ラタトゥイユとは、いわば野菜のごった煮。単純だからこそ、いくらでも創意工夫ができる料理ですから、調理師の底が、あっさりと浮き彫りになるのです。あなたのラタトゥイユは、野菜を小さめにカットし、短時間で濃いめの味付けを施されており、野菜の歯ごたえと風味がしっかりとありました。短時間での調理は、空腹の私をご考慮くださったのですね。そして、小さな野菜は、私の口のサイズにもぴったり。食べやすく、多忙な私には大助かりでした。あなたは腕も、姿勢も、発想も、愛情も満点です。今後も、店や調理界発展のため、腕をお貸しください。ではこれから、じっくり最後まで味わわせていただきます！



可憐なレシピ

リングサス：おう、◇◇◇、ちょっといいか？ ラティシヤから、お前さんに頼みごとがあるらしい。ハッハ、大人気だな◇◇◇。
あいつが頼りにするもの、わかるってもんだぜ。なにせ、腕前でお前さんの上をいくのは、俺ぐらいだからな、ワッハッハ！
……ま、色々と頼りにされて大変だろうが、苦労がさらに腕を磨くって思っただけで、観念しな。
さあ、さっさと「ラティシヤ」の話聞いてやんな。

ラティシヤ：お待ちしてました。まずは、約束してください。今からご説明する依頼が、口外厳禁ということを。
リムサ・ロミンサの政治の中枢アドミラルブリッジにて、近々、メルウィブ提督がお茶会を催されます。
その会で出す献立を検討するための試作です。「ブラッドカーラントタルトHQ」と「ベストリーフィッシュHQ」、
それに「カモミールティーHQ」を、1皿ずつお願いします。
提督は、船乗りですから、お茶よりもお酒をお好みです。なのに、あえてお茶会を開催するということは……
酒を飲めない国賓級のおもてなし、ということでしょう。
食される方の情報が少ないのは、不利ですが…… あなたならば、必ず乗り越えてくれると信じています。心して、挑んでくださいな。

ラティシヤ：お茶会の支度は、順調でしょうか？ 「ブラッドカーラントタルトHQ」と「ベストリーフィッシュHQ」、
それに「カモミールティーHQ」を1皿ずつお願いしますね。

ラティシヤ：まあ、すでに、いい香りにつつまれています。これだけで、顔がほころんでしまいますね。では、さっそく試食させていただきます！
大変おいしかったです……舌はもちろん、目にも。まず、カモミールティーHQの可憐な香りと色……
まるで、テーブルが花畑になったかのようです。
そして、ブラッドカーラントタルトHQとベストリーフィッシュHQの工芸品のごとき美しさ…… 食べるのがためらわれるほどです。
それを乗り越え……ひとたび口へ運べば、深い甘みと、さわやかな酸味が、至福の境地へわが身をいざなう……
これは、もはや味わえる芸術品です！
菓子類は、繊細な作業の連続であるだけでなく、芸術的センスも問われる、まさに難関の分野。
これほどの腕なら、自信を持って提督に推薦できます。
近々、国賓を招いた重要な会議が連続するそうで、最高の料理で歓待し、交渉を有利に進めたいとのこと。
これを担う調理人の審査が今回の依頼の目的でした。
あなたの料理が、この都市の外交の切り札となるのです。この都市の命運を左右する、大仕事ですよ。覚悟して、臨んでくださいな。



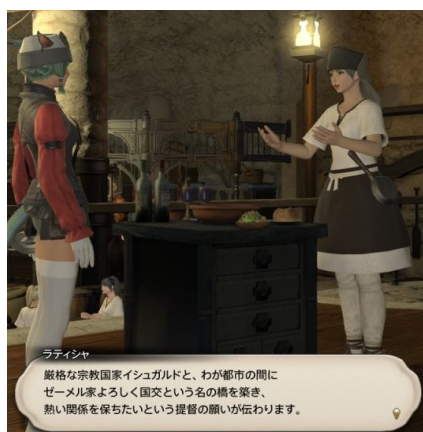
親睦のレシピ

リングサス： おっ、待ってたぞ。お前さんが、メルウィブ提督の外交の切り札として国賓に料理をふるまうことは、もちろん聞いているぞ。さっそく提督から、依頼が届いてるそうだ。詳しい話は、「ラティシャ」から聞くんだな。後のことは、お前さんとラティシャに任せた。調理の腕を存分にふるって、提督の外交を支援してやれ！

ラティシャ： お待ちしました、◇◇◇さん。今回は、**イシュガルド教皇庁の大使**をおもてなしする料理をお願いします。献立の検討の結果、「**ゼーメル家風グラタンHQ**」となりました。エフトの尾肉やポボトを、器ごと窯で焼き上げ体の芯から温まる、極寒のイシュガルドらしい料理です。提督は、クルザスの郷土料理を振る舞うことで、イシュガルドへの敬意と友好を表すおつもりです。このご意向を、あなたの料理でサポートしてください。

ラティシャ： 「ゼーメル家風グラタンHQ」を1皿です。イシュガルドの国賓にお出しして、喜ばれる料理をお願いします。

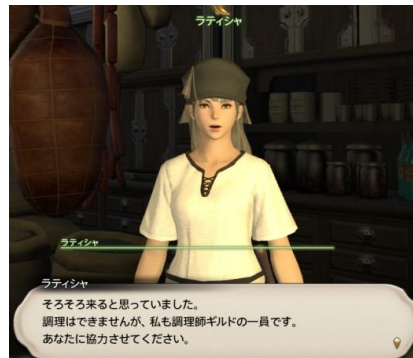
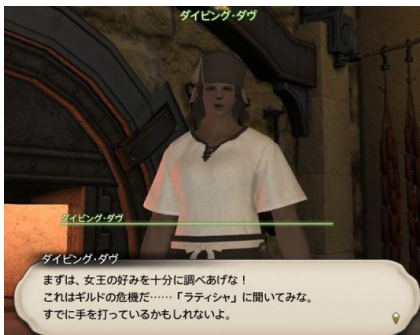
ラティシャ： 重要な依頼ですので、政庁へ届ける前にいったん味見をさせていただきますね。大変おいしゅうございました。「クリーム」の焦げた香ばしいにおいがたまらず、熱いの、かきこんでしまいたくなるほどです。料理とは、その都市の風土と歴史、文化の結晶……。山岳地で育ったエフトの尾肉はやや筋っぽいですが、小口に刻むことで食べやすく工夫されています。また、その名が冠する「**ゼーメル家**」とは、彼の国の**四大名家のひとつ**であり、**築城技術に長けた家柄**……。寒冷地で要塞建築にあたる大工たちのため、器ごと焼き上げたのが「グラタン」の始まりとされます。まさに風土と歴史が生んだ料理と言えましょう。厳格な宗教国家イシュガルドと、わが都市の間にゼーメル家よろしく国交という名の橋を築き、熱い関係を保ちたいという提督の願いが伝わります。この一品ならば、必ずイシュガルドとリムサ・ロミンサとの懸け橋となれるでしょう。ごくろうさまでした。



食通ロロリトの逆襲

リングサス：おう、とんでもない依頼が来やがったぜえ。メルウィブ提督が催す、次の晩宴会の主賓はウルダハの女王「**ナナモ・ウル・ナモ**」陛下だ！！なんでも非公式でリムサ・ロミンサに来るらしいが、お前さんの噂を、聞いていたらしくてな。女王陛下から直々のご指名らしいぜ。特にメニューの指定はねえ。お前さんが腕をふるった「美味しい料理」が食べたいそうだ。こいつあんでもねえ名誉だぜ！だが……しくじれば、評価も海底に沈んじまうぞ。……お前のすべてをかけて、調理してこい！調理師ギルドも全面的にバックアップするぜ！まずは、ウチの「ダイビング・ダヴ」と話してみろ。ウルダハ出身だから、知恵を貸してくれるだろう。

ダイビング・ダヴ：ナナモ様が……故郷じゃ、あたのような下々の者が女王陛下のお姿を見かける機会なんて、なかったね。力になれそうもないが、これだけは忠告しとくさね。あんたが前にやり込めたロロリトを覚えているかい？ あいつは砂蠟衆……女王にすら意見できる立場でね。実は今回の訪問も、あいつが仕切ってるって噂なんだ。きつと女王の前で、あんたに恥をかかせようって魂胆だろ。料理が口に合わなかった……なんてことになれば、あんたも、この店の面目も丸潰れだろう？まずは、女王の好みを十分に調べあげな！これはギルドの危機だ……「ラティシャ」に聞いてみな。すでに手を打っているかもしれないよ。

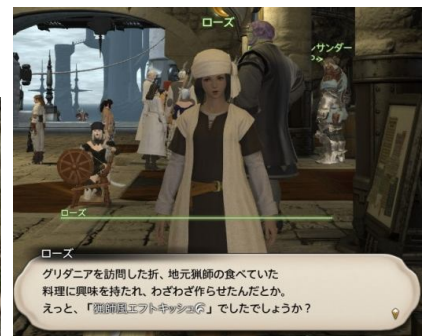
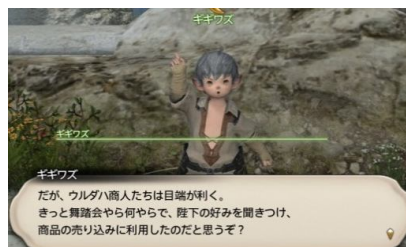
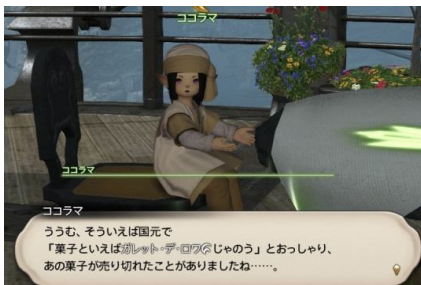


ラティシャ：そろそろ来ると思っていました。調理はできませんが、私も調理師ギルドの一員です。あなたに協力させてください。とはいえ、困った事態になりました。ロロリト会長の差し金で、女王陛下の好みが隠されています。あなたの料理なら問題ないとの一点張りです。早急に、情報を集めなくては。都市内で、ウルダハの商人や冒険者から話をきいてみてください。それから私の古巣、「メルヴァン税関公社」に赴き、「**ルブ・エボカン**」に相談するとよいでしょう。食材の流通に詳しいので、ヒントが掴めるかもしれません。

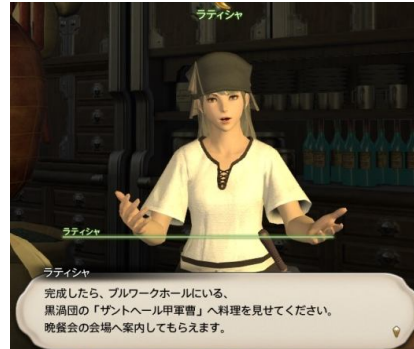
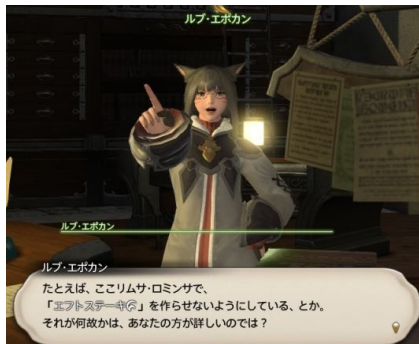
ココラマ：ナナモ陛下ですか……いささかお若い方ですな。政事を担うには、いかがなものかとも思います。はて、あの方の好物が知りたいです？ううむ、そういえば国元で「菓子といえば**ガレット・デ・ロフ**HQじゃのう」とおっしゃり、あの菓子が売り切れたことがありましたね……。

ギギワズ：ああ、確かに俺はウルダハの出だ。なに、ナナモ陛下の好物を知らないかだと？ウルダハの市場で、「女王陛下の御用達」という触れ込みで、「**ビーフシチュー-HQ**」用の肉が売っていたのを見たことがある。本当に「御用達」かどうかは怪しいもんだがな。だが、ウルダハ商人たちは目端が利く。きつと舞踏会やら何やらで、陛下の好みを聞きつけ、商品の売り込みに利用したのだと思うぞ？

ローズ：ナナモ陛下のお食事の好みについて、ですか？それなら経済誌「ミスリルアイ」で読んだことがあります。グリダニアを訪問した折、地元猟師の食べていた料理に興味を持たれ、わざわざ作らせたんだとか。えっと、「**猟師風エフトキッシュHQ**」でしたでしょうか？



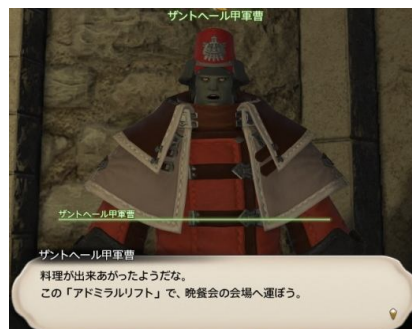
ルブ・エボカン : ああ、あなたが例の件の調理師ですか。ラティシャから聞いてます。
今週から、突然、エフトの尾肉という食材が、リムサ・ロミンサの市場から姿を消しました。
東アルデナード商会が買い占めているようです。
同商会の会長は、ロロリト氏……。彼が買い占めを指示したのであれば、何らかの意図が隠されていると見るべきでしょうね。
たとえば、ここリムサ・ロミンサで、「エフトステーキHQ」を作らせないようにしている、とか。
それが何故かは、あなたの方が詳しいのでは？



ラティシャ : その顔を見ると収穫はあったようですが…… なにか問題でもあったのでしょうか？
「エフトステーキHQ」に「ビーフシチューHQ」、さらに「猟師風エフトキッシュHQ」と「ガレット・デ・ロワHQ」……意見が割れていましたか。
では、4皿を全部作ってはでしょうか？ 女王陛下には、全ての料理に、少しずつ手を付けてもらおうのです。
そうと決まれば、さっそく料理の支度にかかってください。ここからが◇◇◇さんの腕の見せ所ですよ。
完成したら、ブルワークホールにいる、黒渦団の「ザントヘル甲軍曹」へ料理を見せてください。
晩餐会の会場へ案内してもらえます。

ザントヘル甲軍曹 : お主が、◇◇◇だな？ 晩餐会の料理は完成したのか？
「エフトステーキHQ」「ビーフシチューHQ」、「猟師風エフトキッシュHQ」「ガレット・デ・ロワHQ」……
以上の4皿を用意すると聞いている、急げよ。

ザントヘル甲軍曹 : 料理が出来あがったようだ。この「アドミラルリフト」で、晩餐会の会場へ運ぼう。





ナナモ・ウル・ナモ : むふうへ、美味よのう！ わらわにグーパーほどの胃袋があれば、もっと食べられるものを……もうお腹がいっぱいじゃ。

ロロリト : ナナモ様、お気に召したようで何よりでございます。このロロリトめも恐悦至極。

ナナモ・ウル・ナモ : リムサ・ロミンサには腕のいい調理師がいる……。お主の進言、嘘ではなかったようじゃの。実に見事、わらわは満足じゃ。非公式の訪問とはいえ久方ぶりの他国。ラウバーンの元を離れるのは不安じゃったが、このような料理を食せたのは僥倖。……そちが、こたびの料理を用意したのじゃな？ そちに十二神の祝福を、今宵は至福のひと時であった。

ロロリト : くっ……なんということだ。まさか、あの調理師めがここまで女王の好みを調べ上げるとは……誤算だった。女王の前で、恥をかかせてやるはずが……。ええい、いまいましい！ これでは女王を喜ばせただけではないか！

ナナモ・ウル・ナモ : なにか言うたか、ロロリトよ？

ロロリト : い、いえ……ただの独り言にございます。

ナナモ・ウル・ナモ : そうか、ならばよい。
……さて調理師よ、名を聞いておこ。そちに褒美を取らせるゆえ、後ほどギルドで受け取るがよい。
……なんじゃと？ わらわがお主を指名して調理を任せたといいのか？ はて、今宵の招待は全てロロリトに任せていたのじゃが。

リングサス : おうおう、お前さん、やりやがったな！ 女王陛下からのお褒めの言葉だぞ？ そんなもん、俺だってもらったことがねえ！ もっとも、俺も提督から感謝の言葉をもらったぜ。いい調理師を育ててくれたってな。俺なんて心構えを教えたぐらいなのに。調理師として俺以上の名声を手に入れたな。俺からお前に教えることは、もう何もねえ。だが、料理への情熱なら負けるつもりはないぜ？ こいつがありゃ、どんな困難だって、乗り越えちまう。そして、どんな料理もうまくする、最高のスパイスだ。この情熱の炎で、お前だけの料理を追求して、たくさんの人を幸せにしてやってくれ。かといって、これから先も増長すんなよ。腕を落としたら、いつでも鍛え直してやるからな！



リングサス

かといって、これから先も増長すんなよ。
腕を落としたら、いつでも鍛え直してやるからな！

登場人物

リングサス：調理師ギルドマスター。
旧14では調理師？には見えなかったわw



ナナモ・ウル・ナモ：ウルダハの女王



ロロリト：黒い噂が絶えない砂蠍衆の一人



イングハム：調理師



タイピング・タヴ：調理師



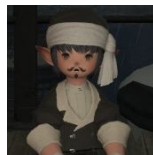
ラティシャ：「ピスマルク」会計。元「メルヴァン税関公社」



メーティマガ：「ピスマルク」の常連



ノノベサ：ロロリトの執事



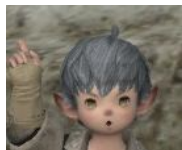
ルプ・エボカン：「メルヴァン税関公社」



ココラマ



ギギワズ



ローズ



チャーリス：調理師ギルド受付

